

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F140310110776	設置等組織名	工学部 情報ネットワーク工学科
大学名	久留米工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	福岡県	事業計画名	久留米工業大学工学部（情報ネットワーク工学科）の収容定員の増員

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	・令和5年8月 新規科目の担当者、シラバス、学科カリキュラムフロー作成に着手する。 1-①令和5年10月 学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見直し調査に着手する。（初年度の実施） 1-②令和6年1月 メタバースを用いた教育環境の企画設計に着手する。 ・令和6年3月 総合型選抜における課題発見・解決型高大接続入試区分の予告を行う。 1-③令和6年4月 引き続き学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見直し調査に着手する。（2年目の実施） 1-④令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてリーフレットの作成に着手する。 1-⑤令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてWebサイトの作成に着手する。 1-⑥令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についての説明動画の作成に着手する。 1-⑦令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材育成についてのDMや電子媒体による広報活動に着手する。	・令和5年8月 新規科目の担当者、シラバス、学科カリキュラムフロー作成に着手した。 1-①令和5年10月 学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見直し調査に着手した。（初年度の実施） 1-②令和6年1月 メタバースを用いた教育環境の企画設計に着手した。 ・令和5年9月 総合型選抜における課題発見・解決型高大接続入試区分の予告を行った。 1-③令和6年4月 引き続き学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見直し調査に着手した。（2年目の実施） 1-④令和6年3月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてリーフレットの作成に着手した。 1-⑤令和6年3月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてWebサイトの作成に着手した。 1-⑥令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についての説明動画の作成に着手した。 1-⑦令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材育成についてのDMや電子媒体による広報活動に着手した。	R5年度自己評価	【4】計画を上回って実施している。
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和7年3月 入学定員20名増（収容定員増）の認可申請予定	令和7年3月 入学定員20名増（収容定員増）の認可申請をおこなった。		
フェーズ1 後倒し			R7年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2-①令和7年4月 情報教育・研究棟（5号館）実験室の改修工事に着手する。 2-②令和7年4月 新棟講義・多目的活動室の整備に着手する。 2-③令和7年4月 データアナリティクス開発支援室整備に着手する。 2-④令和8年3月 100号館STEAM教育システムを導入する。 2-⑤令和7年4月 学科演習室附帯の情報教育（PBL会議）システム設計に着手する。 ・令和7年10月 認可後、学生募集を開始する。総合型選抜において、課題発見・解決型高大接続入試を実施する。 ・令和8年3月 整備した各種施設設備の稼働を完了する。		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和8年4月 工学部 情報ネットワーク工学科 入学定員110名（90名から20名増）			
フェーズ2 後倒し			R8年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-①令和8～11年の各年度毎 助成事業業務に従事する事務（技術）職員を雇用する。 3-②令和8～11年の各年度毎 100号館STEAM教育システムの安定稼働及びソフトウェア使用による教育環境を保持する。（4年間継続の契約実施） 3-③令和8～11年の各年度毎 リーフレット等印刷物による学科教育内容の広報を行う。 3-④令和8～11年の各年度毎 DMや電子媒体による学科教育内容の広報を継続して定期的に行う。		R9年度自己評価	リストから選択してください。
			R10年度自己評価	リストから選択してください。
			R11年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止				

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	久留米工業大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部等の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	久留米工業大学
-------------	-------	-----	---------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

⑭

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【企業や自治体と連携した科目の整備・実施】令和3年度から「AI活用演習（選抜クラス）」において、地域企業・自治体と連携したPBLを実施している。令和5年度入学生からは、PBL科目「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の受講により、継続して長期間、産業界と連携した地域課題解決型PBLに取り組む。長期インターンシップの制度も整え、PBLを重視したアクティブラーニングを継続・実践する。 【地域の他大学と連携した科目の整備・実施】本学は、MDASHの両レベルでプラス選定された大学として、地域高等教育機関に向けたAI・DS教育を支援している。令和6年度からは、看護学生とともに異分野・異年齢連携で福祉・健康等の課題解決型PBLに取り組む。 【海外大学との連携】令和3年度から実施している、遠隔会議システムを用いたセントラルフシントン大学とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）にメタバース・ラボを導入し、AI・DX専門人材育成に向けた、新たなコミュニケーション空間での語学留学を創造・実現する。	【企業や自治体と連携した科目の整備・実施】（申請時の計画通りに進捗）令和5年度も「AI活用演習（選抜クラス）」において、地域企業・自治体と連携したPBLを実施し、14テーマ（14の企業・自治体の協力）を設定し、学生66名、教員15名、地域企業自治体の社会人25名の総勢106名で取り組んだ。令和5年8月25日に開催したPBL成果報告会には、九州経済産業局や久留米リサーチパークなどの、連携企業以外の企業・自治体・教育機関（高校・大学）から50名以上が参加した。令和6年度からは、AI実践プロジェクトⅠが始まり、翌7年度にはAI実践プロジェクトⅡ・Ⅲが開講され、学生は課題解決型PBLに継続して取り組むことができる。 【地域の他大学と連携した科目の整備・実施】（申請時の計画通りに進捗）令和6年度からは、聖マリア学院大学の看護学生9名とともに異分野・異年齢連携で福祉・健康等の課題解決型PBLに取り組んでいる。 【海外大学との連携】（申請時の計画通りに進捗）セントラルフシントン大学（CWU：海外協定校）とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）において、本学メタバース・ラボを導入した新たな環境での語学研修を試験的に実施した。最終日にはメタバース・ラボで、課題解決型PBLの研究成果報告も行った。	

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【入学者選抜における科目の見直し】令和7年度からは、入試必修科目の見直しや「課題発見・解決型入試（仮）」を検討する。 【女子学生の確保に向けた取組】女子生徒率が高い鳥栖商業高校や伊万里実業高校と、メタバース・ラボによる協働講義や課題解決型高大接続PBLの実施を今年度から始める計画である。実業系・商業系高校との科目等履修生制度も検討し、連携強化を図る。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】AIプログラミング教室の開催、メタバース・ラボの活用、高大接続授業などで連携する。 【社会人学生の受入れ強化に向けた取組】令和4年度には社会人講座「ロボットマニピュレータの制御とAI画像認識による応用」を開講した。 地域課題解決型PBLでは学生と社会人が協働でAIを用いた課題解決に取り組んでおり、社会人のリスキリングにも繋がっている。 【留学生の受入れ強化】メタバースを活用した留学生との交流を検討するとともに、教育、生活、就職面での留学生支援体制を整える。	【入学者選抜における科目の見直し】（申請時の計画通りに進捗）令和7年度入試（令和6年度実施）から総合型入試に高大接続教育プログラム修了者を対象にした「課題発見・解決型高大接続入試」を新たに実施する。 【女子学生の確保に向けた取組】（申請時の計画通りに進捗）伊万里実業高校の学生が来学し、①メタバース体験、②AIプログラミング体験（曲がったキュウリと真っ直ぐなキュウリの画像分類）、③本学学生による農業分野の課題解決PBLの取組発表を行うなど、実業系高校の生徒に合わせたカリキュラムで講義・演習を行った。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】（申請時の計画通りに進捗）広川町の小学生を対象にしたAIプログラミング教室を実施した。広川町教育委員会と連携協定を結び、さらに連携を深めることとなった。オープンキャンパスや、高大接続教育（1日大学生）にメタバース・ラボを積極的に活用していき、本学の魅力化を図った。 【社会人学生の受入れ強化に向けた取組】（申請時の計画通りに進捗）令和5年12月19日には久留米ICT組合の技術者（社会人）向けのAI学習会・体験会を実施した。また、地域課題解決型PBLでは学生と社会人が協働でAIを用いた課題解決に取り組んでおり、社会人の参加者も年々増えている。 【留学生の受入れ強化】（検討中）セントラルフシントン大学とのバーチャル留学において、メタバース・ラボを有効活用したが、留学生の受け入れ強化の段階には至っておらず、現在、準備・検討中である。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	久留米工業大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部等の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	久留米工業大学
-------------	-------	-----	---------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■

チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■

チェック

⑭

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■

チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【企業や自治体と連携した科目の整備・実施】令和3年度から「AI活用演習（選抜クラス）」において、地域企業・自治体と連携したPBLを実施している。令和5年度入学生からは、PBL科目「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の受講により、継続して長期間、産業界と連携した地域課題解決型PBLに取り組む。長期インターンシップの制度も整え、PBLを重視したアクティブラーニングを継続・実践する。 【地域の他大学と連携した科目の整備・実施】本学は、MDASHの両レベルでプラス選定された大学として、地域高等教育機関に向けたAI・DS教育を支援している。令和6年度からは、看護学生とともに異分野・異年齢連携で福祉・健康等の課題解決型PBLに取り組む。 【海外大学との連携】令和3年度から実施している、遠隔会議システムを用いたセントラルワシントン大学とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）にメタバース・ラボを導入し、AI・DX専門人材育成に向けた、新たなコミュニケーション空間での語学留学を創造・実現する。	【企業や自治体と連携した科目の整備・実施】これまで選抜クラスとして実施していたPBLを、令和6年度からは正規PBL科目に位置付け、学部2年生対象の「AI実践プロジェクトⅠ」として開港した。令和7年度には、3年次「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ」を開講予定であり、新カリキュラムではPBLを長期間にわたり、継続して経験できる。本学全体で実施した令和6年度のPBLでは14テーマを設定し、学生68名、教員14名、地域企業自治体の社会人25名の計107名で取り組んだ。うち、情報ネットワーク工学科の学生は39名であり、来年度からは、継続して本PBLに参加することが期待できる。 【地域の他大学と連携した科目の整備・実施】令和6年度からは、聖マリア学院大学の看護学生10名が本学学生とともにPBLに取り組んだ。これにより、異分野・男女連携でのPBLに発展し、福祉・健康・医療分野の課題解決に取り組みが広がった。 【海外大学との連携】セントラルワシントン大学（CWU：海外協定校）とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）において、本学メタバース・ラボを導入した新たな環境での語学研修を実施した。CWUのシンポジウムSOURCE（Symposium of University Research and Creative Expression）において学部生4名が研究成果を英語で発表し、その発表動画が公開されている。	

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【入学者選抜における科目の見直し】令和7年度からは、入試必修科目の見直しや「課題発見・解決型入試（仮）」を検討する。 【女子学生の確保に向けた取組】女子生徒率が高い鳥栖商業高校や伊万里実業高校と、メタバース・ラボによる協働講義や課題解決型高大接続PBLの実施を今年度から始める計画である。実業系・商業系高校との科目等履修生制度も検討し、連携強化を図る。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】AIプログラミング教室の開催、メタバース・ラボの活用、高大接続授業などで連携する。 【社会人学生の受入れ強化に向けた取組】令和4年度には社会人講座「ロボットナビレータの制御とAI画像認識による応用」を開講した。 地域課題解決型PBLでは学生と社会人が協働でAIを用いた課題解決に取り組んでおり、社会人のリスキングにも繋がっている。 【留学生の受入れ強化】メタバースを活用した留学生との交流を検討するとともに、教育、生活、就職面での留学生支援体制を整える。	【入学者選抜における科目の見直し】（申請時の計画通りに進捗）令和7年度入試（令和6年度実施）から総合型入試に高大接続教育プログラム修了者を対象にした「課題発見・解決型高大接続入試」を新たに実施した。 【女子学生の確保に向けた取組】（申請時の計画通りに進捗）JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」を佐賀大学他高等教育機関と連携して実施し、女子学生との接点を強化した。また、女子の入学試験の検定料を無料にする等、工学系進学の支援を行った。その結果、女子学生の入学者の割合が2倍弱に増加した。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】（申請時の計画通りに進捗）広川町の小学生を対象にしたAIプログラミング教室を実施した。広川町教育委員会と連携協定を結び、負福岡県青少年科学館の企画イベントを担当する等、さらに初等教育との連携を深めることとなった。また、DXハイスクールの支援等、中等教育との連携を強化した。 【社会人学生の受入れ強化に向けた取組】地域課題解決型PBLでは学生と社会人が協働でAIを用いた課題解決に取り組んでおり、社会人の参加増に繋がった。また、リカレント教育エコシステム構築支援事業へ申請を行った。 【留学生の受入れ強化】令和8年度入学者選抜試験より、留学生の志願者を増やすべく、学内にWGを立ち上げ、入試制度、教育、生活、就活面での支援体制の検討に着手した。	

大学名	久留米工業大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	320	320	320																
		入学者数	人	324	283	262																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	320	320	320																
		入学者数(B)	人	324	283	262																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.88	0.82																
	収容定員等	収容定員(C)	人	1320	1320	1320																
		編入学定員	人	20	20	20																
		在籍者数(D)	人	1377	1283	1204																
		編入学者数	人	9	14	8																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	0.97	0.91																

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	29,080	73,258	23,701	82,976	187,946	91,727	86,208												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間にける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	61,771
本事業による助成金の額(F)	千円	170,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	66,021

特記事項